

平成20年度井田小学校 学校評価 自己評価表・学校関係者評価表

4つの柱	具体目標	自己評価	分析・考察	学校関係者評価者の意見等	次年度に向けての改善案等
考える子 (確かな学力) の育成	①PISA型読解力を高める。	概ね良好	○算数科及び理科をはじめとし各教科でPISA型読解力育成に視点を置いて授業を行った結果、多様な考えを持つことができるようになった。 △語彙がまだ不足しており、感想は、「おもしろかった。」「よかった。」というものが少ない。 △各教科で学習したことを総合的な学習の時間に生かすことはまだできていない。	○PISA型読解力とは何かー基礎的・基本的な知識や技能を身につけ、それらをさまざまな社会の中で活用(表現・思考・判断)する力のこと。学習指導要領の【確かな学力】と同じような力。 ◎自分たちが子どもの頃には日記をつけるよう指導があった。日記を書くことは、少しずつ語彙の獲得や正しい文章作成に生かしているのではないが。	○語彙を増やす工夫と書く活動をさらに重視していく。 ○今後、総合的な学習の時間のカリキュラムを教科や他の領域と関連を持たせたものにしていく。
	②「読み・書き・計算」の力を高める。	良好	○朝読書は落ち着いた雰囲気の中じつり取り組んでいる。 ○各種調査では、読書の冊数は決して多くはないが、読んだページ数や本に接している頻度は高い。 ○漢字計算道場の取組も、2学期から問題を変更したため意欲的になった。 ○継続して実施している詩の暗唱や音読の効果も現れ、「読み、書き、計算」の力は全体的についてきている。	○一人に月に何冊読ませるとい目標を決めているのか。→学年、個人に応じて決めている。 ○日本は十分にあるのか。→標準冊数の90%ぐらいはあるが、古いものが多い。毎年100冊くらいは新しい本を入れているが、古いものは読まないで足りているとは言えない。	○今後は、家庭で読書に親しむことを考えていく。 ○古い図書の廃棄と新しい図書の購入を計画的に進めていく。 ○朝のVS活動の時間や活動を見直し、読書タイムの時間や漢字・計算の練習時間を生み出し、定着を図る。 ○辞書の活用をさらに進めていく。 ○ここにごサポートや管理職が入っての少人数指導など、どの子にも学力を保障することを今後も継続していく。(ここにごサポートは平成21年度も配置を要望していく。)
	③学習意欲を高める。	概ね良好	○極一部の児童を除き、家庭学習の時間は目標に達している。 ○毎時間、児童は一生懸命学習している。これは分かる授業に努めた成果だと考える。		○家庭学習の習慣づけは家庭環境からの影響が大きいため、家庭と連携を図り、個別に指導していく。 ○児童が一生懸命学習に取り組む姿勢がいつまでも続くように、さらに、毎時間ごねらいを絞った授業をし、児童に見通しを持って学習に取り組ませる。また、知的好奇心をくすぐるような環境づくりもしていく。 ○キャリア教育を推進することで、目標を持たせて、家庭学習の習慣化を図る。
関わり合える子 (豊かな心) の育成	①人間関係力を高める。	概ね良好	△人間関係力アップと人間関係力育成のプログラムが具体的な場面でどう関連しているのか見極めが難しい。		○遊び時間をしっかり確保し、多くの人数で遊ぶ中でトラブル等に対処しながら他者との関わり方を身につけていくものように考える。今後も、全校遊びはもちろんのこと昼休みの確保や群れて遊ぶことや協働を奨励していく。
	②自治能力と自力解決能力を高める。	概ね良好	○豊作祭や運動会の応援など児童が企画運営する活動を組んだ結果、自治能力が少しずつ育ってきた。 ○「お助けポスト」と称する学校生活での自分たちの問題を全体に投げかけて解決していくシステムを作り、学級会や児童総会で話し合っ解決していく経験を積ませ、自力解決能力も少しずつ育ってきた。	○運動会の応援合戦は子どもたちが考えてやっていることは分かるが、豊作祭などはどうか。→時間や手間をかけず、お客さんに楽しんでもらえる内容を子どもたちで考え実行している。 ○全体的には、考えが保守的で、これまでのことを踏襲する傾向があり、新しい発想は出にくい。	○今後は、新学習指導要領に基づき、学級活動や児童活動など特別活動の年間指導計画づくりを行っていく。 ○児童自らが企画運営する活動を今後も計画的に取り入れ、達成感を味わわせるようにする。
	③人権意識を高める。	概ね良好	○2学期途中に、人権・同和教育実践評価をしたところ人権意識を醸成する環境は概ね整っているという結果が出た。 ○教職員の細かな配慮、指導の結果、大きな人権問題は起きていない。	◎人権・同和教育講演会に参加して良かった。子どもとともに大人も学んでいくことが大事だと思う。今後もより一層保護者、地域の人が参加できる会を考えてほしい。	○今後は、取組の様子を家庭や地域にもっと発信し、連携して取り組んでいく。
あいさつができる子 (規範意識) (基本的な生活)	①大きな声で気持ちの良い挨拶、返事ができるようにする。	今一歩努力を要する	○全体的にはよくあいさつをするようになってきている。 △個人差があり、決まった場面ではかできない児童もいる。	○評価が低いのではないが、子どもたちは良く挨拶をするが・・・一評価の根拠は、児童、保護者、地域アンケート結果を加味した教職員の評価にある。特に児童アンケート結果が低かった。 ◎子どもたちばかりでなく、地域全体で取り組んでいく必要がある。 ◎地域から挨拶を呼びかけて、親、地域の人から挨拶をする環境をつつていく必要がある。	○あいさつをすることが人間としていかに大切であるかという指導を続けることと家庭・地域をあげてのあいさつ運動の展開を考えていく。
	②基本的な生活習慣・行動様式を身につけさせる。	良好	○各種行事の準備や片付け、地域の人との交流場面などで、とても気持ちの良い行動・態度を示している。 ○掃除など働くことを厭わない。この姿勢を今後も大切にしていきたい。 △現時点での問題は食べ物の好き嫌いが多いこととなかなか飲み込めない児童がいることである。	○給食の時間はどのくらいか。→準備20分、食べる時間20分 ○全員が食べ終わらないと給食は終わらないようになっているのか。→一定刻で一応終わりにし、食べ終わっていない児童は、その後5分間延長している。 ○いつも食べきれない子どもはいつも最後のデザートを食べることができない。かわいそうだ。	○給食を食べるのが遅くなる原因を個別に調べ、対応していく。 ○給食の準備の開始時刻を厳守することで、食べる時間を確保する。
	③ルール遵守の態度を身につけさせ、ルールを守ることに優越感を感じさせる。	概ね良好	○きまりをそんなに破っているという児童は見かけない。		○今後も、道徳の時間を中心に全教育活動を通じて継続して、規範意識を育てる指導をしていく。
たくましくねばい	①体力・運動能力を高める。	良好	○スポーツテストの結果は、個人差はあるが、これまでの体力づくりの取組の成果が出ている良好である。	○水泳は、雨など、その年の天候によって入れなかったりするが、その対策はしているか。→適宜時間割を代えて水泳の時間を確保している。全校一斉に水泳指導をしており、今年度は体育の時間に12時間。放課後は体力づくりとして週3回は水泳練習をした。大田市の泳力検定では、達成率が高い。 ○体力・運動能力には個人差があるというのだが、全国平均と比べてどうか。→上回っている児童が多い。	○今後も陸上、水泳、体操大会を発表の場ととらえた放課後の体力づくりと11月以降の5分間マラソンをはじめとする2校時終了後のパワーアップタイムを継続していく。

強い育子（たくましい心と				□体格はどうか。→平均はほとんど意味をなさない。少し小柄な子が多いと思う。 ○肥満傾向の子が減ってきたように思う。→チェックや指導をしている。	
	②ねばり強さを育てる。	概ね良好	○各種大会やコンクールへ多くの児童が参加し、それに向けての練習や準備に継続的にねばり強く取り組んだ。 ○各学級で、努力する活動を決めて取り組ませることもだいたいできた。		○ねばり強さだけでなく、周りに流されたり、低いレベルに合わせたりしない強さを育てる指導をしていく。
	③早寝、早起きができるようにする。	今一歩努力を要する	○早寝を心がけている児童は増えてきている。 △早寝を妨げているものが遅い時間帯のテレビ視聴であることもはっきりしている。		○今後さらに、家族ぐるみ、地域ぐるみの取組に発展させる。

3つの土台	具体目標	自己評価	分析と考察	学校関係者評価者の意見等	次年度に向けての改善案等
家庭・地域・関係機関との双方向連携	○家庭・地域との連携・融合	概ね良好	○保護者・地域連絡委員のアンケートからも、適宜出している学級だよりや月1回の幼小だよりで学校や学級の様子や考えは伝わったものと考えられる。なお、毎月のアクセス数はおよそ500である。 ○公民館との連携がうまくいき、今年度も、総合的な学習の時間をはじめ各教科において、外部講師を招いたり、地域に出かけて発表したりして、学習成果が上がった。 ○学校行事の地域の方や保護者の方の感想や意見を教職員・児童は励みや新たな目標にした。 △教科等の学習場面を見ていただくよう設定している地域授業公開日の来校者は極めて少なく、方法等検討しなければならない。 ○井田小学校幼稚園地域連絡会において、建設的な意見がたくさん出され、地域の協力・応援があることを力強く感じ学校運営ができた。今後も、この会を大切にしていきたい。	□ホームページは自分も見ているが、どうい人がアクセスしているのか。 □他の学校の子どもたちのアクセスもあるのだろうか。	○総合的な学習の時間の削減に対応しながらも、積極的に地域に出かけていったり、地域の方と交流したりする活動は継続していく。 ○学校の取組をもっと知っていただくために、地域公開授業日や講演会への案内等を地域の各種団体に直接呼びかけたり、公民館と連携を図ったりしながら参加を促進する。
	○幼小一貫教育の推進	概ね良好	○幼小連携を幼稚園の研究会でも公開し好評を博した。ここ3年間でかなり形ができてきた。	○一緒に何かするだけでなく、幼稚園は小学校でどういことをするかを知って保育をし、小学校は幼稚園でどのようなことを体験してきたかを知って教育をする。それがこれからは大事である。 ○滑らかな接続のため、小学校の体育を体験したり給食と一緒に食べたりしている。	○今後は学びの接続を意識した幼稚園独自の活動、小学校独自の学習を考えていく。 ○幼稚園のまつ組とは、三学期の一定期間、給食や体育と一緒にすることで、小学校での雰囲気や味を味わわせたり、入学への抵抗感を取り除いたりする。
	・学校安全	概ね良好	○防犯訓練や避難訓練など学校安全計画に沿って、ほぼ計画どおりにできた。今後も、同じようなことでも繰り返して行く。		○日が短くなる秋・冬季の下校時刻に遅れず集団下校できるよう放課後の活動の終了時刻を厳守する。
校内連携	○内にも開かれた学校運営	概ね良好	○職員朝礼での報告・連絡などで各部・各担任の取り組んでいることの共通理解は概ね図ることができ、生徒指導や特別支援に関わる事案に対処することができた。 ○職員会議を月1回にし協議事項を精選し、職員研修の時間を生み出すことができた。 △職員会議の議題に、もつと各担当からの協議事項の提案があっても良かった。		○年度当初から分かっている議題は、長期休業中及びその前後に行うこととし、もつと月曜日を研修日に回していく。
	○各分掌の情報の共有化	概ね良好	○各分掌からの情報発信は適宜行われた。 △文書の集中管理はできたが、電子媒体のデータの集中管理にはやや不十分なところがある。		○情報管理の上からも、個人パソコンに公文書のデータをおかないことを基本とする本校の文書管理システムを今一度徹底する。
自ら学び集団教師職員の	○研究への参画と研究の日常化	概ね良好	○研究主題に沿って、日々の授業からPISA型読解力をつける努力をした。また、予定された授業公開はすべてできた。 △最も大切にしなければいけない省察の時間が少なく、主題に迫りきれなかった。 ○その他の校内研修については、職員会議のない月曜日を当てて時間を確保し実施することができた。今後は、研修内容を精選し、全体研修日と個人研修日にする。		○来年度からは、特別活動を校内研究の主要な柱に持ってきて、話し合いと合意形成で問題解決ができる、自立した児童の育成についての研究を進める。 ○分掌担当がより自発的な研修を計画し、それらを効果的に組み合わせることで、自主研修や教材研修の時間を生み出すようにする。
	☆教育課程	概ね良好	○各学校行事について1学期から計画的・継続的に取り組んできたり、計画を2ヶ月近く前から起案し心構えと準備をして取り組んできたりして、各学校行事のねらいを達成することができた。 ○行事に向けての練習が続くときには、週毎に練習計画を立てて取り組むとともに、木曜日の放課後は行事の練習を入れずに学習の個別の指導や教材研究の時間にあてて取り組むこともできた。 ○学習発表会の内容は、本年度のように、学習発表会のための内容ではなく、学習と関連づけることが日々の学習成果の発表の場となる。		○今後、低学年の児童の負担を考慮し、体操練習の参加については種目や練習終了時刻を他の学年と区別していく。 ○晩秋は日暮れが早いことも考慮し、練習終了時刻と下校時刻を厳守する。 ○来年度に向けて、移行期の年間指導計画の策定していく。 ○地域と合同の行事（地区民体育大会・学習発表会等）は、学校が先行して日程を決め、調整をする。また、学習発表会（産業文化祭）は、温泉津の他の小学校と日が重ならないように調整をする。